

山口情報芸術センター [YCAM] パフォーマンス公演／作品展示

YCAM performance lounge #6

高嶺格「いかに考えないか？」

2012年6月23日(土)、24日(日)、30日(土)、7月1日(日) 15:00-18:00 料金:500円(1日券)

高嶺格「ジャパン・シンドローム～山口編」

2012年6月23日(土)～7月1日(日) 11:00-19:00 ※土日は11:00-14:00 入場無料

ともに中央公園(山口情報芸術センター正面) 特設テント

たかみね・ただす

気鋭のアーティスト高嶺格の2作品を〈山口バージョン〉として再制作 中央公園に期間限定でオープンするテントで発表

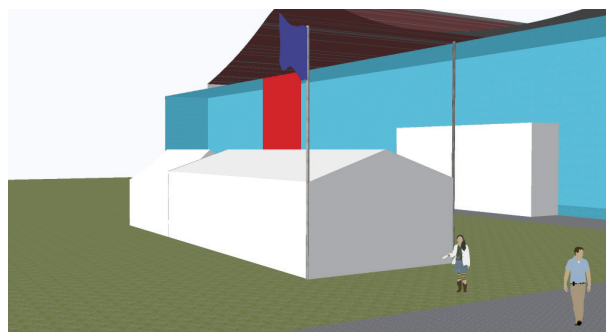
山口情報芸術センター [YCAM] では、ダンスや演劇を鑑賞するきっかけとなるよう、現在生まれつつある新しい身体表現の魅力をダイレクトに伝えるシリーズ企画「YCAM performance lounge (パフォーマンス・ラウンジ)」の第6弾として、美術家／演出家の高嶺格(たかみね・ただす)の2作品を紹介します。高嶺は90年代前半から、パフォーマンス、映像、インスタレーション、舞台美術など、さまざまなメディアを通じて、身体と社会との間で引き起こされる〈摩擦〉を取り上げてきた、国外からも高い評価を受ける気鋭のアーティストです。

今回は高嶺の近作にあたるパフォーマンス作品「いかに考えないか？」と、映像作品「ジャパン・シンドローム」を、山口在住のパフォーマーが出演する〈山口バージョン〉として新たに制作し、中央公園に特設するテント内で発表します。

山口市民が参加し、山口を舞台とする本作には、私たちが生きる今日の社会やコミュニティの在り方が映し出されます。身体表現が持つ間口の広さと奥行を感じさせる本作の魅力を、この機会にお楽しみください。



高嶺格「いかに考えないか？」(2010)
セツ寺共同スタジオ、あいちトリエンナーレ



参考画像：会場となる中央公園特設テントの完成予想図

■ 終演後イベント

7月1日(日) 18:00- ポストトーク

高嶺格と出演者によるトークイベントを開催します。

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター [YCAM] 情報制作課 田中
TEL:083-901-2222 FAX:083-901-2216 e-mail:information@ycam.jp
〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 <http://www.ycam.jp>
取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

今日における〈社会〉や〈コミュニティ〉の在り方を問いかける高嶺格の2作品

90年代前半から、パフォーマンス、映像、インスタレーション、舞台美術など、さまざまなメディアを通じて、身体と社会との間で引き起こされる〈摩擦〉を取り上げてきた高嶺格。

今回紹介するのは、私たちの生活を取り巻く現実的な問題を、鋭く、しかしどこかユーモラスに浮かび上がらせるパフォーマンス作品と映像作品の〈山口バージョン〉。いずれも上演/上映は中央公園に特設するテントでおこない、観客は自由に出入りができます。

劇場とも美術館とも異なるスタイルで体験する独特の作品は、子どもから大人まで幅広い方々にお楽しみいただけます。

「いかに考えないか？」

出演するのは山口在住のお年寄り

観客と出演者が生み出すおかしなパフォーマンス

観客席に置かれたタッチパネル式キーボードを通じて、スクリーンの向こう側にいるパフォーマーに指示を出し、その指示に応じてパフォーマーが即興的に影絵をつくり出すというパフォーマンス作品。予め決められた脚本や演出は存在せず、互いに顔が見えない者同士の即興的なインタラクションがこの作品の重要な鍵となります。

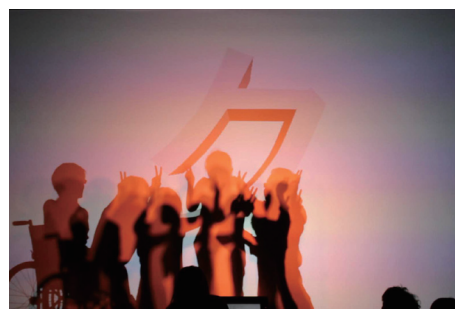
今回は出演者として、山口市民から募った60歳以上の方々がパフォーマーとして作品に参加します。

「ジャパン・シンドローム～山口編」

気鋭のアーティストが迫る「その後」の日常

2011年3月に発生した福島での原発事故以降、私たちの生活に潜むようになった漠然とした不安や、人と人との間の分断に向かい合う映像作品。まず、パフォーマーが、街頭で原発事故にともなう放射能汚染の影響についてのインタビューをおこない、その様子をパフォーマー自身が再現して映像化します。

今回は、出演者兼インタビュアーとして、山口市民から募った演劇/ダンス経験者が参加。県内の様々な商店や施設に向向いていきます。



高嶺 格「いかに考えないか？」(2010)
セツ寺共同スタジオ、あいちトリエンナーレ



高嶺 格「ジャパン・シンドローム～関西編」(2011)
京都芸術センター、KYOTOEXPERIMENT2011

高嶺 格(たかみね・ただす)



1968年生まれ。美術家、演出家。
京都市立芸術大学工芸科漆工専攻を卒業後、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー (IAMAS) 卒業。
1990年代初頭よりパフォーマンス活動を行い、ダムタイプの作品にも参加。現在は、インスタレーションや映像、写真、パフォーマンスやその演出など、多彩な手法で表現を展開する。
近年の展覧会に、個展「とくよくみえない」(2011年/横浜美術館、広島市現代美術館、鹿児島県霧島アートの森)。YCAMでは、2006年「IMAGINARY CHUYA / 映像としての中世のことば」展にて「月夜の浜辺」、2008年「大友良英/ENSAMBLES」展にて「orchestras」(ディレクション+サウンドコンポジション: 大友良英/アートディレクション: 高嶺格)を制作・発表している。

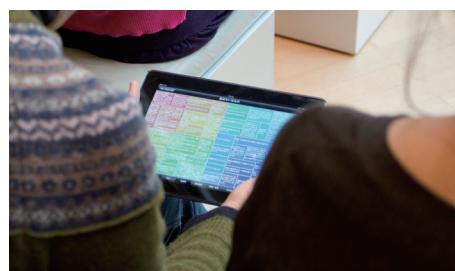
公演終了後には高嶺格と出演者によるトークイベントも開催！

YCAMにまだ来たことがない……。パフォーミングアーツを鑑賞した経験がない……。そんな方に向けて、YCAMの演劇やダンス公演を鑑賞するきっかけとなる企画として2007年より開催している「YCAM performance lounge」。

今回は、高嶺格の2作品を発表するとともに、最終日の公演終了後には高嶺と出演者たちによるポストトークもおこないます。山口在住の出演者たちはパフォーマンスという特殊な体験を経て、どのようなことを感じたのでしょうか？

また、YCAMが独自に開発した感想共有システムを使用して、観客からのコメントをその場で収集。寄せられた感想や質問に高嶺と出演者たちが答えていきます。

アーティストや出演者、そして観客同士の交流を促し、さらに作品への理解をより深めることができるポストトークにもぜひご参加ください。



過去に開催したポストトークの様子

開催概要

YCAM performance lounge #6

高嶺 格「いかに考えないか？」

2012年6月23日(土)、24日(日)、30日(土)、7月1日(日)

15:00-18:00

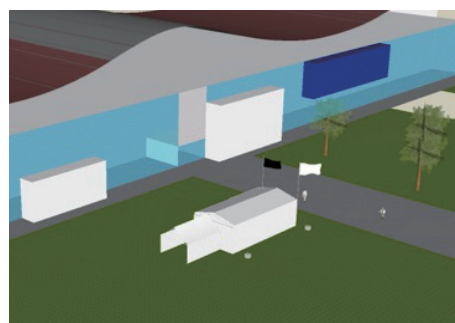
料金：[全席自由/1日券] 500円

※未就学児童入場無料/開催当日に会場にてチケットをご購入ください

ポストトーク

7月1日(日)上演終了後

作者の高嶺格と、出演者によるトークイベント。このほか感想共有システムを利用した質疑応答もおこないます。



参考画像：会場となる中央公園特設テントの完成予想図

YCAM performance lounge #6

高嶺 格「ジャパ・シンドローム～山口編」

2012年6月23日(土)～7月1日(日)

11:00-19:00 ※土日は11:00-14:00

入場無料

休館日：火曜日(祝日の場合は翌日)

ともに中央公園(山口情報芸術センター正面)特設テント

■ともに未就学児入場可能

■託児サービス

対象：1才以上

託児時間：13:00-17:00

料金：お子様1人につき30分150円

申込方法：当日、YCAM1階チケットインフォメーションまでお申し込みください(ただし、満員の場合は順番制となります)。

■車椅子席・補聴システム

事前にお問い合わせください。

主催：公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会

平成24年度文化庁優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業

機材協力：カラーキネティクス・ジャパン株式会社

技術協力：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]